

写真界の次世代を担う若手を発掘する

第21回写真「1_WALL」展

2019年10月8日(火)～11月9日(土)

11:00a.m.～7:00p.m. 日曜・祝日休館 入場無料

公開最終審査会

2019年10月16日(水) 6:00p.m.～9:00p.m.

※予約制。詳細はWEBでご確認ください。

(当日5:30p.m.～6:00p.m.は審査のため、ギャラリーにお入りいただけません。)

ガーディアン・ガーデンでは、個展開催の権利をかけた公募展、第21回写真「1_WALL」展を開催します。本展は、ポートフォリオ審査による一次審査と、一対一で審査員と対話をする二次審査を通過したファイナリスト6名が、一人一壁面を使って作品を発表するグループ展です。会期中の10月16日(水)には、一般見学者にも公開される最終審査会を開催します。ファイナリストによるプレゼンテーションの後、審査員による議論を経て、グランプリが決定します。グランプリ受賞者には、1年後の個展開催の権利と、個展制作費30万円が贈られます。

息を合わせるという行為を映像で表現する片山達貴。写真を通じて見ることを考える溝淵亜依。動物の匂いをテーマに作品をつくる魏子涵。写真を撮る行為を通して、自らに向き合う今村紗矢香。「透明感」を写真でとらえようとする岡崎果歩。空虚に感じる現実の本質へ迫ろうとするRyu Ika。今回の「1_WALL」展は、以上6名によるグループ展です。



写真部門審査員

五十音順・敬称略



沢山遼 Ryo Sawayama | 美術批評家

1982年生まれ。2007年、武蔵野美術大学大学院造形研究科修士課程修了。2009年「レイパー・ワーク——カール・アンドレにおける制作の概念」で『美術手帖』第14回芸術評論募集第一席。武蔵野美術大学、首都大学東京等非常勤講師。論文や雑誌などへの寄稿多数。



田中義久 Yoshihisa Tanaka | グラフィックデザイナー / 美術家

1980年生まれ。主な仕事に東京都写真美術館をはじめとした文化施設のVI計画、ブックショップ「POST」、「The Tokyo Art Book Fair」などのアートディレクションや、アーティストの作品集制作も定期的に行なっている。飯田竜太(彫刻家)とのアーティストデュオ「Nerhol」としても活動。



野口里佳 Rika Noguchi | 写真家

1971年生まれ。さいたま市出身。那覇市在住。1994年日本大学芸術学部写真学科卒業。大学在学中より写真作品の制作を始め、以来国内外で展覧会を中心に活動。現代美術の国際展にも数多く参加している。近年の展覧会に「第21回シドニービエンナーレ: SUPERPOSITION」(2018)などがある。



姫野希美 Kimi Himeno | 赤々舎代表取締役 ディレクター

2006年に赤々舎を設立。写真集、美術書を中心に200冊余りの書籍を刊行。第33回木村伊兵衛写真賞の志賀理江子『CANARY』、岡田敦『1 am』、第34回同賞の浅田政志『浅田家』、第35回同賞の高木こずえ『MID』、『GROUND』、第38回同賞の百々新『対岸』、第40回同賞の石川竜一『絶景のポリフォニー』、『okinawan portraits 2010-2012』、第43回同賞の藤岡亜弥『川はゆく』などがある。2018年より大阪芸術大学教授。



増田玲 Rei Masuda | 東京国立近代美術館主任研究員

1968年神戸市生まれ。筑波大学大学院地域研究研究科修了。1992年より東京国立近代美術館に勤務。近年担当した主な展覧会に「ジョセフ・クーデルカ展」(2013年)、「奈良原一高 王国」(2014年)、「トーマス・ルフ展」(2016年)など。

「1_WALL」審査の流れ

一次審査と二次審査を通過した6名による最終プレゼン。グランプリは誰の手に？



一次審査(ポートフォリオ審査)

ポートフォリオによる審査で30名を選出。



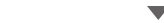
二次審査(ポートフォリオレビュー)

ポートフォリオを介して審査員と一対一で対話。6名を選出。



「1_WALL」展

二次審査を通過した6名によるグループ展。



公開最終審査会

「1_WALL」展会期中に、グランプリを決定する最終審査会を公開で開催。



グランプリ受賞者個展

一年の制作期間を経て、ガーディアン・ガーデンで個展を開催。



今村紗矢香 Sayaka Imamura
1991年生まれ。

「わたり」鳥の群れが横切った。自分と違う生き物がここにいるということに安心した。わたしたちは交差しすれ違いふり返る。



片山達貴 Tatsuki Katayama
1991年生まれ。京都造形芸術大学美術工芸学科現代美術・写真コース卒業。

「息」つなぎ目は、「わかりあえなさ」や「もどかしさ」とも言いかえることができ、それは私とあなたの関係を唯一のものと説明するために必要な「理由」にも近いものだと思う。



Ryu Ika Ryu Ika
武蔵野美術大学造形学部映像学科在籍。
「Big Brothers is Watching you」現実を見つとすればするほど、リアルが遠ざかっていく。何もかもフラットで薄っぺらく、そして破かれやすく。人々は完璧にセットされた舞台を生きるエキストラである。



岡崎果歩 Kaho Okazaki
1993年生まれ。University of the Arts London 写真専攻卒業。
「なまもの」透明感の正体とは。



魏子涵 Wei Zhan
1994年生まれ。武蔵野美術大学大学院写真コース在籍。
「情動の匂い」動物は人間と同じ意識を持っているか？人間は動物を見ると、無意識的に可愛いと口にしてしまう。動物を見ると言うより、自分の憶断を見ることである。



溝淵亜依 Ai Mizobuchi
1989年生まれ。京都女子大学現代社会学部現代社会学科卒業。
「大袈裟に、そして不規則に降り積もる雪の下の風景」私が見ているものは私のイメージ以上にはならない。写真は私の私に何を写しているのかを忠実に、そして冷静にもたらし。